

ひと ひと

女と男の情報紙

笑がお



還暦の友人

40数年ぶりに恩師を交えて高校時代のクラスメートと再会した。
その中に、私と何故か縁が深い友人がいる。

I県で同じ高校に入り、翌年A県の同じ高校に転入した彼女とは、道端や私の仕事先で偶然の再会をくり返してきた。

彼女は大学紛争のさなかに大学を中退、一人インドに旅行し、現地で目が見えなくなるほどの急性肝炎にかかり、死ぬか生きるかというぎりぎりの状況の中、日本にもどってきた。

その上、お父さんは若くして亡くなり、お姉さんを事故で亡くし、現在はお母さんの介護を一人で引き受けている。しかし、どのような過酷な状況でも、彼女の顔には、笑顔がある。

死のふちをさまよってから、何故か肝機能が向上し、どれほどお酒を飲んでも酔っ払わなくなったという。社内検診でもすべてオールAの判定をもらい、糖尿病の私に自慢する。

「なんだか最近、長生きする気がしない。死が近づいてきているのかしら」という私のジョークにも、「私は100歳まで生きるから」と、にべもない答えが返ってくる。でも、彼女の笑顔は温かい。そして力強い。

退職の時期を迎え、これからどうするの？という質問に彼女の答えは「働くよ！」だった。後期高齢者枠というのがあるから大丈夫という。自信に満ちた彼女の笑顔がまぶしかった。

みんなが笑顔でいられるために……

みんなが笑顔になる街づくり・地域づくりを

一緒に考えていきませんか？